

2023.3 発行

女性のつながりサポート事業



居場所 から きこえてきたこと

～ 女性の声 ・ 協力団体の思い ～



「女性のつながりサポート事業」とは

新型コロナウイルス感染症がひろがり始めてから、約3年が経ちました。

感染状況は徐々に落ち着きつつあるものの、コロナ禍では、特に非正規雇用労働者が多くを占める女性が失業や休業、シフト減により収入の減少が顕著になるなど、大きな影響を受けました。生活や仕事だけでなく、DV被害、子育てや介護に関しても女性が困難や不安を抱える状況が続いています。

滋賀県では、2021年より「困っている女性をひとりぼっちにしない」を合言葉に、ほっと一息つけるような場づくりをすすめ、ご本人が必要な支援につながるようサポートしたり、つながりを回復される小さな手助けをしています。



協力団体のみならずからいただいたご報告のなかで、どんな言葉が多く使われているかを見える化しました。



もらう 寂
考える 利用 悩む 思う
参加者 悩み 親子 配布
小さい 必要 様子 親 声
おしゃべり 言う よろ
女性 居場所 子育て
明るい よい 助かる わかる
良い 気が付く うれし
難しい 何気ない 同士 開催
しやすい 少ない 持つ 楽

「女性のつながりサポート事業」では、

①相談会の開催 ②居場所等の提供 ③情報提供 ④生理用品の配布 を
おこなっています。

居場所の提供や生理用品の配布には、県内で活動されている団体や福祉施設
等のみなさまにもご協力をいただいています。

ここでは、協力団体のみなさまを通じて届いた女性の声や様子、協力団体の
みなさまが感じておられることをいくつかのキーワードからお伝えします。

協力団体一覧は、
こちらの二次元コードから
ご覧いただけます。



<https://lit.link/joseitsunagarishiga>

しい 強い
妊娠 聞く 大切 ありがとう
ママ 遅い 困る いく
きる 実施 話す 興味深い
こ 知る いただく
ぶ 支援 参加
子ども 育児 多い くれる
仕事 夫 大変
生理用品 忙しい
い しんどい
相談 母親 感じる 大きい
しい いい しまう お母さん
美味しい あかん



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

「母親」

子育てに必死すぎて、自分がやりたいことがわからない。これから、子どもが自立していくのがわかる、そんな時に私が私でいるための何かを見つけない、けれど、見つからない。

仕事をやっているほうが自分のバランスを取りやすい。働いているからという理由があると、家事も育児も手が抜けるが、今は休暇中なので頑張ってしまう。頑張らなあかんという気持ちがしんどい。

日々、仕事が忙しく、子どもと話をする時間が取れない。夜勤もあり、自分自身も疲れが取れない。



自分の時間がなくなった。今までの自分だけの時間を使えないストレス、どうしたものか。

「お母さん」

「ママ」

出産時がコロナ禍で、支援センター等も閉鎖されていて、友人をつくることもできず孤独だったので、話す機会を持ててうれしい。

ひとり親支援の物資の引き取り時に、お母さんたちの間でAさん家の子どもが話題となった。お母さんが遅くまで働いているので、子どもが遅くまで遊んでいるというのである。一面だけをとらえてネグレクトだとレッテルを貼った。後日、親御さんと話してみると、遅くまで働く理由を教えてくれた。関係者と共有し子ども達への見守り活動をより丁寧にしたと思った。

…参加者からの声

…協力団体からの声

「子ども」

1年生の子どもが学校に行き渋りがあり、そんな中、夜泣きをまだする子どもがそばにいる。体も心もへとへと。自分にはやりたいことがあるが、それもしない自分に焦りを感じる。

上の子どもを可愛いと思えない。
仕事をするこゝろで、子どもと向き合う
こゝろのバランスをとっている。
そんな感情はみんなあると聞くがどう
なのだろう？

「子育て」

「育児」

双子を生んで辛いことは？と言われれば、たくさん言える。
けれど楽しかったことは？と言われたら、思い出せない。
そんな後にもう一人生まれ、子育てって楽しいと思えるよ
うになった。
本来、子育ては楽しいはず、なのに楽しいと思えない人が
この世にいる。そんなママの助けがしたい。

不登校の子どもさんがいる方が来られ、地
域での理解のなさ、支援の少なさを嘆いて
おられた。「なかなか私の話をゆっくり聞
いてくれるところがない。来れてよかった。
また来ます。」とスッキリされた様子。



0歳児の育児は「赤ちゃんかわいい
ね」はあっても「お母さんよく頑張っ
ている」なんて誰も評価してくれない。
時には立ち止まって振り返り、がん
ばっている自分を認め、自分を癒す力
をはぐくむことが大切だ。

子どもによって反応は様々
で、世の中に出回る情報ど
おりに子育ては進まないこ
とを伝えた。それでも悩ん
でしまうもので、継続的な
フォローと気楽な関係づく
りが重要だと再認識した。

「居場所」

ママ友はいらない。自分の気持ちを話して聞いてくれる、時にアドバイスをしてくれる場所があることがよい。

子育ての相談がしたくてもできない、話したくても話せない、お母さん同士のコミュニケーションをとる場所が少なくなっている、とても喜んでもらえた。少しの悩みでも話すことで気持ちが楽になった、と言ってもらえたので、これからも続けていきたい。



「おしゃべり」

「相談」

出産時がコロナ禍で支援センターなど閉鎖されていて、友人も作ることもできず孤独だったと聞きました。こういう場があることで、話す機会持てることができ、喜んでくださいました。

相談は、初めてお会いし、相談窓口を紹介しただけで解決できるものではなく、何回か来ていただいて相談者に寄り添うことで、心も開いてくださり、解決方法も見いだせるのではないかと思います。

普段あまり話すことのできない、不登校の話など出ました。喋ることで安らぐと言われていたので、知らない方と話すことで、共感できる方もおられたので、このような場は必要だと感じました。

SNSの中に居場所があるのなら、それは良しなのだろうが、リアルに相談できる場所がここにあることを知ってもらっただけでもよいのだろう。

「よろこぶ」

こんな居場所がもっとあったらいいのに！
探しているけど、なかなかないです。

毎月顔を合わせることで、支援のお礼だけでなく、感じることも話してくれるようになった。回を積み重ねることで、人間関係が少しずつできてきたような気がする。

生理用品をお渡ししました。「助かります」と喜んで持ち帰っていただくことができました。

「うれしい」

「楽しい」

子どもさんと離れる1～2時間は、ママにとってリフレッシュになっているようで、私たちスタッフもうれしく思います。

受け渡し時の短い言葉のやり取りも重ねると、何か通じあえるものになってきたような気がする。

本当に少しずつだが、お互いが打ち解けてくるのが感じられてうれしい。



子どものことだけでなく、自分のことも相談していいと気づいてもらえた。

ひとり親支援で物品を取りに来たときに、「ちょっとした話ができるのが楽しみになってきた」と2人のお母さんが言ってくれた。私も冗談が言える関係が築けてきたことをうれしいと実感している。



これまでの取り組みの中で、暗い表情で居場所に来られた方が、居場所での活動を通じて肩の力が抜けて笑顔で帰られたり、「誰かに悩みを話すことで、一人ではないと思えた」という声をいただいたりしました。

しっかりとした福祉的な支援も大切ですが、誰かと少し話すことで気持ちが楽になることもあります。しかし、居場所や相談窓口につながれないまま、一人で悩みや不安を抱え込んでいる方もまだまだいらっしゃるのではないのでしょうか。

これからも福祉関係者や地域のみなさまと試行錯誤しつつ、一緒に取り組みを進めていきたいと思っています。

発行 滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会

「女性のつながりサポート事業」は、滋賀県からの委託を受けて、滋賀県社会福祉協議会が実施しています。